

3 ロジックモデル

番号	個別施策	番号	施策の効果	番号	目指す姿		
【全圏域】							
A	県民に対し、脳卒中の前兆、症状、発症時の対処法等に関する継続的な啓発	①	脳卒中の予防（生活習慣改善の普及啓発・環境整備）	1	予防により脳卒中の発症が減少している		
B	ライフステージに応じて健やかで心豊かに生活できるよう、生活習慣の改善や社会環境の質の向上を通じた社会全体での健康づくりに努めるとともに、脳卒中の予防及び早期発見に資する特定健康診査及び特定保健指導の必要性を周知し、県民の健診受診を促進						
B	ライフステージに応じて健やかで心豊かに生活できるよう、生活習慣の改善や社会環境の質の向上を通じた社会全体での健康づくりに努めるとともに、脳卒中の予防及び早期発見に資する特定健康診査及び特定保健指導の必要性を周知し、県民の健診受診を促進	②	特定健康診査・特定保健指導を受けることができる	再掲			
B	再掲					指標	特定健康診査受診率の向上
						指標	特定保健指導実施率（終了率）の向上
C	県メディカルコントロール協議会と連携し、救急医療における脳卒中の検証や医療機関と救急隊員との連携強化を促進	③	患者ができるだけ早期に専門医療機関へ搬送される	2	脳卒中による死亡が減少している		
D	新興感染症の発生・まん延時における脳卒中患者の搬送体制の構築を推進					指標	脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数
E	早期に適切な治療が開始されるよう、また高齢化による医療需要の増大や働き方改革への対応を見据え、急性期医療機関間の連携強化が必要であり、デジタル技術を活用するなど、地域の医療資源を考慮した施設間ネットワークの構築を推進	④	急性期医療を24時間365日受け入れるための施設間ネットワークの構築（発症後速やかに専門的な治療・リハビリテーションを受けることができる）	再掲	脳血管疾患患者の退院患者平均在院日数		
						指標	脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数
F	急性期、回復期、維持期の各期に応じた医療並びにリハビリテーション（摂食・嚥下リハビリテーション含む）が切れ目なく適切に受けられるよう、地域連携クリティカルパスの普及促進や治療と仕事の両立支援など、関係機関間の連携を強化	⑤	日常生活への復帰、生活機能維持・向上のための病期に応じたリハビリテーションを受けることができる	●	脳血管疾患患者が日常生活の場で質の高い生活を送ることができる		
						指標	脳卒中患者に対するリハビリテーションの実施件数
					●	脳卒中患者に対する療養・就労両立支援の実施件数	

※●は国の重点指標